



入学式



学位記授与式・修了式



学位記授与式・修了式

平成 27 年度学位記授与式・修了式 並びに平成 28 年度入学式を実施しました。

学位記授与式・修了式は平成 28 年 3 月 1 日(火)に目黒区の「めぐろパーシモンホール」において、卒業生・修了生 435 名、父母等の関係者が多数出席して行われ、それぞれの目標に向かって羽ばたきました。

また、入学式は平成 28 年 4 月 2 日(土)に練馬区の「練馬文化センター」にて挙行され、新入学生 572 名を新たに受け入れました。

今後の活躍と有意義な学園生活を送られることを願いたします。

CONTENTS 目次

- 2 今後の大学経営について
東京医療保健大学 理事長 田村 哲夫
未来に向けて挑戦しよう
東京医療保健大学 学長 木村 哲
- 3 平成 27 年度 4 年次生学科別進路状況
- 4 2016 年度看護学科卒業生交流会を開催しました 他
医療保健学部 看護学科
- 5 第 16 回日本クリニカルバス学会学術集会の報告 他
医療保健学部 医療栄養学科
- 6 病棟情報システムの導入 他
医療保健学部 医療情報学科
- 7 学生生活支援委員会の取り組み 他
東が丘・立川看護学部 看護学科
- 8 院生の声
大学院 医療保健学研究科
- 9 助産師のさらなる自律を目指した
「ALSOプロバイダーコース研修」の経験 他
大学院 看護学研究科
- 10 平成 28 年度 入学者選抜状況
- 11 国際交流
- 12 Topics



今後の大学の経営について

東京医療保健大学
理事長 田村 哲夫

本学は平成16年11月30日に大学として設置認可され、平成28年度は開学11年目ということになる。昨年12月には開学10周年記念祝賀会を開催したが、まだ開学10年という短いスパンに鑑み、記念式典とは銘打たずに祝賀会としたにもかかわらず、当日は各界から700人を超える大勢の皆様にご参会をいただき、誠に感慨深く、又本学に対する期待の大きさを実感して身の引き締まる思いである。

ところで今年平成28年度は学園にとって大きな成果を挙げた最初の10年に続く、次の新たな10年に向けての出発の年となる。

平成28年度は既に幕を開け、4月2日入学式を挙行、学部学生(493人)、大学院生(60人)、助産学専攻科生(19人)、計572人の新入学生を迎えた。そして、東京都立川市に新設したキャンパスには東が丘・立川看護学部看護学科災害看護学コースの3年次生(92人)が学修の拠点を移した。平成29年度からは同コースの学生の4分の3(300人)が立川キャンパスで共に学ぶことになり、発展の著

しい立川市の中でも昭和記念公園に隣接し、豊かで閑静な環境に恵まれた場所で学修できる条件が整ってくる。

このように、本学にとっては大きな飛躍へと踏み出す新しい10年がはじまっている。この新10年間で最大のテーマは現状における4キャンパス(五反田、世田谷、国立病院機構(東が丘)、国立病院機構(立川))体制の中では最も施設の狭隘化、老朽化が進行している世田谷キャンパスの再構築をはじめとした抜本的な対応を含むキャンパスプラン(構想)の策定。より良い学修環境の実現に全力を傾注したいと考えている。この点は、平成29年度からスタートする第2期中期目標・計画にもしっかりと位置付けられているが、日常不断に実行し全力をあげていきたいと考えている。なお、順調に進めば平成30年度に、関西近畿圏に新しく看護系学部が地元の誘致により実現することが予定されている。その他にも大学を経営する上で、さまざまに配慮し実行しなければならない事柄が多々ある。一つひとつをクリアしつつ、東京医療保健大学の今後を語る礎にさせていただければ望外の喜びである。

最後に、4月14日に発生した熊本地震によって熊本県及び大分県を中心とする地域で被災されました皆様に心からのお悔み、お見舞いを申し上げますとともに一日も早い地震の収束及び日常生活への復旧をお祈り申し上げます。



未来に向けて挑戦しよう

東京医療保健大学
学長 木村 哲

東京医療保健大学は昨年、開学10周年を迎えると共に、新たな10年に向けて第一歩を踏み出しました。これから先も本学の建学の精神である「科学技術に基づいた正確な医療保健の学問的教育・研究を行い」、その成果を人類の健康と幸福のために提供できる、「寛容と温かみのある人間性と生命に対する畏敬の念を尊重する精神」を持った医療人と研究者を育てることを目指して一緒に励んでまいりましょう。

これまでの10年間は規模においても教育・研究の内容においても、正に急成長の10年であったと言えます。卒業生が次々と社会に出て活躍し、東京医療保健大学の認知度・知名度も随分上がり、基盤は整いました。一方、これからの10年及びその先においても、本学が魅力ある大学、特色ある大学、社会に貢献する大学として成長発展を続け、未来の医療や看護、福祉、国民の健康を支えリードする人材を輩出する教育・研究機関として存在感を示し続けるためには、時代のニーズを予見し、社会が求める人材を他に先んじて育成・輩出して行く大学になる必要があります。

この先、日本は団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年を迎

えます。高齢化に伴い「医療保健」に対するニーズはますます高まり、看護と介護の質と量の確保・充実が求められます。急速な高齢化の一方で少子化が進んでいることから、増え続ける高齢者を減り続ける若者で支えなければならない流れは、2040年代をピークにしばらく続くでしょう。核家族化も進んでいることを考えると、介護と子育てを支援する社会資源を充実させる必要があります。日本がこれらの難問をどのように解決して行くのか、世界中が注目しています。

健康寿命の延伸を図り、高齢でも自立して日常生活が送れるようにするため、医療は疾病の治療から疾病予防へ、入院看護から在宅看護へ、看護から介護・福祉へと大きくシフトして行くことが迫られて行くでしょう。これからは本学がこれまで培ってきたマネジメント力、チーム力が真価を発揮する時代です。このような変化に柔軟に対応・順応し、時代を先導できる健全で高い倫理観を持った人材を育成し、新時代に向けた健康増進・医療・ケア・福祉の在り方を研究し実践して行くことが、「医療保健」を冠した大学に学び、研究し、教育している私たちに課せられた課題です。

温かい人間性を損なわずこれらの課題を解決するためには学部と助産学専攻科における「自ら考える学修」の推進と共に、大学院における先進的研究が重要です。課題は大きく難しいほど挑み甲斐があります。皆で社会のニーズを予見しながら、世界と日本と地域の明るい未来に向けて貢献する大学創りに、一緒に挑戦して行きましょう。

1. 就職状況

- 文部科学、厚生労働両省による、今春卒業大学生の4月1日現在の就職率は、97.3%（昨年同期比0.6ポイント増）でした。
- 本学の就職率は医療保健学部、東が丘・立川看護学部を合わせ99.1%となっております。

2. 各学科の状況（平成27年度卒業生） ※各学科の数字は過年度生を含まず。

(1) 医療保健学部 医療情報学科 就職率96.2% (人)

就 職 者	就職決定者	51
	未決定者	2
進 学 者	大 学 院	0
	専門学校※	0
そ の 他		1
卒業延期者		7
合 計		61

(2) 医療保健学部 医療栄養学科 就職率99.0% (人)

就 職 者	就職決定者	100
	未 決 定 者	1
進 学 者	大 学 院※	2
	専門学校※	1
そ の 他		1
卒業延期者		2
合 計		107

※大学院 ・奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス科（1人）
 ・筑波大学人間総合科学研究科（1人）
 ※専門学校 ・語学留学（1人）
 ※その他 ・大学院推薦入学辞退（1人）

(3) 医療保健学部 看護学科 就職率100% (人)

就 職 者	就職決定者	病 院	98
		保 健 師	4
		民間企業	0
	未 決 定 者		0
進 学 者	大 学 院		0
	専門学校※		5
そ の 他			0
卒業延期者			1
合 計			108

※専門学校 ・本学助産学専攻科（5人）

(4) 東が丘・立川看護学部 看護学科 就職率100% (人)

就 職 者	就職決定者	病 院	82
		保 健 師	0
		民間企業	2
	未 決 定 者		0
進 学 者	大 学 院 ※		5
	専門学校※		1
そ の 他			5
卒業延期者			0
合 計			95

※大学院 ・本看護学研究科高度実践助産コース（5人）
 ※専門学校 ・本学助産学専攻科（1人）

(5) 助産学専攻科 就職率100% (人)

就 職 者	就職決定者	19
	未 決 定 者	0
合 計		19

平成27年度各種国家試験受験結果一覧

医療保健学部及び助産学専攻科

	看護師	保健師	助産師	管理栄養士
本学受験者数	(108)	(18)	(19)	(106)
	112	21	19	106
本学合格者数	(107)	(18)	(19)	(79)
	111	19	19	79
合 格 率	(99.1%)	(100.0%)	(100.0%)	(74.5%)
	99.1%	90.5%	100.0%	74.5%
全平均合格率 (新卒)	94.9%	92.6%	99.8%	85.1%
全平均合格率 (全体)	89.4%	89.8%	99.8%	44.7%

注) () は新卒者で内数である。

東が丘・立川看護学部及び大学院看護学研究科高度実践助産コース

	看護師	保健師	助産師
本学受験者数	(98)	(0)	(3)
	101	3	3
本学合格者数	(94)	(0)	(3)
	97	1	3
合 格 率	(95.9%)	(0%)	(100.0%)
	96.0%	33.3%	100.0%
全平均合格率 (新卒)	94.9%	92.6%	99.8%
全平均合格率 (全体)	89.4%	89.8%	99.8%

注) () は新卒者で内数である。
 ※保健師受験生 3 名は留年生。(27 年度卒業生から保健師教育は廃止)

「くまモン」もよろこんでくれるかも 一学友会としての熊本震災への支援一

熊本県では4月14日に発生した大規模の地震に続く余震が一月以上たった現在も続いていることに心を痛めております。このような中で、ご自身も被災者である看護職のみならず、医療施設、避難所等で被災者の方々に専門職として寄り添い、頼りにされている活動ぶりをテレビの映像を通して拝見させていただき、看護職って素晴らしいと改めて感激しています。私たち学生にできることは何かと学生同士で話し合った結果、とにかく募金活動をし、現地の看護職の方々が一番必要としている支援をしようということになりました。3日間の募金活動で、学生、教職員のみなさまのご協力で

27万5394円を集めることができました。被害が大きかった地域の一つである阿蘇市一の宮保健センターの保健師さんと連絡を取らせていただき、壊れてしまった書類棚と、住民のみなさまのアセスメントに必要な簡易血糖測定装置と、SpO₂測定器が今すぐ欲しいということでしたので、早速お送りさせていただくことにしました。災害の規模を考えるとほんのわずかなご支援ですが、学友会としてこのような活動ができたことを報告させていただきます。募金にご協力いただきました皆様にも感謝申し上げます。

東京医療保健大学 学友会

2016年度看護学科卒業生交流会を開催しました

2016年5月14日(土)に五反田キャンパスにて2016年度看護学科卒業生交流会を開催し、25名の卒業生が参加した。

開会の挨拶の後、坂本すが学科長が「みんな、元気？」というテーマで講演された。講演後の卒業生アンケートでは、「頑張ろうという気持ちになった」「看護について改めて考える機会となった」などの感想があり、前向きに看護に取り組んでいく「元気」を感じることができた。

医療保健学研究科を中心に、本学大学院について篠木絵理教授から紹介された。その後、現在医療保健学研究科に在籍している2名の卒業生から進学の実機や現在の状況、進学して気付いたことなどについて報告された。「大学院で学ぶことは楽ではないが、自分と向き合う機会となった」「視野を広げる機会となった」など、進学後の

具体的な様子が報告された。アンケートでは「大学院について知ることができてよかった」などの感想があり、これからの道を考える上で、貴重な情報提供の場となった。

茶話会では、看護学科教員19名も参加し、軽食を取りながら情報交換や近況報告を行った。卒業生同士または教員との会話は尽きることなく、卒業生は茶話会終了後も名残惜しそうに会場に残っていた。

以上、看護学科就職対策委員会では、卒業生のこれからの更なる活躍を期待するとともに、卒業生と大学がつながりを持ち続け、互いに発展できるような企画を今後も継続していきたい。

看護学科就職対策委員会 助教 ^{かわはら} ^{りか} 川原 理香



災害保健活動演習について

4月26日(火)に助産師過程・保健師過程合同の災害保健活動演習を行いました。国立保健医療科学院 吉田穂波様、石巻赤十字病院産婦人科・小児科病棟看護部長 真坂雪衣様、東京都助産師会災害対策委員長 名嘉真あけみ様、同地区担当・災害対策理事 土屋麻由美様の4名の講師を迎え、災害時の母子を守る取り組みについて、東日本大震災での経験、助産師会の取り組みなどの講義を受けた後、避難所運営ゲーム(HUG)に取り組みしました。限られた時間の中で、多くの避難者・イベントに対応しながら、避難者運営の大変さ、事

前準備の大切さを学びました。

記録写真を見ながら実際の体験を伺うことで、大変な状況の中、命を守り続けることの大切さを強く感じることができました。今後は、避難所運営のガイドラインなどを学び直し、自治体や職能団体の取り組みについて学びを深めていく予定です。

看護学科 教授 ^{ささき} ^{みなこ} 佐々木 美奈子



第16回日本クリニカルパス学会学術集会の報告

2015年11月13日・14日に東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾートにて3,000名を超す多くの方にご参加いただき、盛況裡に第16回日本クリニカルパス学会学術集会を開催いたしました。

クリニカルパスそのものは、入院中の詳細な診療計画のチャートという形で使われますが、本学会では、クリニカルパスは「患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法」と定義しています。いまやICT (information and communication technology) が高度に発達したスマート社会です。今回の大会では、超高齢社会で地域包括医療政策が展開され、スマート社会で医療にもICT化が広まり、クリニカルパスの電子化も進むなか、これからクリニカルパスがどのように医療の質の向上に貢献できるかについて議論したいと考え、メインテーマを「未来に向けたクリニカルパス～スマートプラチナ時代の活用を探る～」としました。超高齢社会を迎え、ICT時代に相応しいクリニカルパスを活用することで、諸問題を解決できないかという観点からこのテーマにて開催した本大会でした。

『地域連携とクリニカルパス』『栄養マネジメントパス』『スマートプラチナ時代に必要なバリエーション分析機能』などいずれのシンポジウムにおいても溢れんばかりの熱気で、熱心にご討論いただきました。

これを契機にシルバー世代の多種多様な疾患患者が、ICTを駆使したクリニカルパスで、ゴールドをも超え、輝かしいプラチナの解決が図れることを願っております。

本大会に際し、ご協力いただいた教職員、学生の皆様に感謝申し上げます。

医療保健学部 医療栄養学科 学科長 こにし としろう 小西 敏郎



研究室紹介：豊田英敏教授 ～夢を叶えるために～

今年4月1日より東京医療保健大学医療栄養学科で勤務させていただきます豊田と申します。これまで、初等教育教員養成・養護教員養成に携わってまいりましたが、管理栄養士・栄養士養成、並びに栄養教諭養成大学で勤務させていただくことは初めてのことで、不安で一杯です。ただ、与えられた職責には全力で取り組んでまいりたいと思います。

さて、平成17年度より学校教育法等一部改正により管理栄養士や栄養士を養成する大学等で栄養教諭の養成が可能になりました。これは、生涯を通じた健康づくりの観点から食生活の果たす重要な役割や、栄養バランスのとれた食生活や適正な栄養管理が求められたからです。そこで、国民的課題である「食に関する指導」の必要性・重要性が叫ばれ、「食」に関する専門的力量と児童生徒に授業を通じて指導できる「栄養教諭」制度の創設がなされたのです。

学校教育は、「知徳」・「徳育」・「体育」を育成の中心に教育指導に取り組んでいます。その上に、基盤である「食育」指導を通して、健康で逞しく未来を切り拓くことのできる「生きる力」を構築しようとするものです。学校教育法に「栄養教諭」は、「児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる。」とあります。まさしく、児童生徒が豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を付けていくために「栄養教諭」の役割があるのです。

しかし、残念ながら栄養教諭の配置状況は遅々として進んでいないことも事実です。平成17年度は34名、平成27年度4月1日現在5,365名（文部科学省）と徐々に増えつつありますが一気に配置が進む状況にないことが懸念です。

「スティーブ・ジョブズ」氏のスピーチの中で「Stay Hungry, Stay Foolish」とあります。これを私なりに解釈するなら「基礎基礎をしっかりと学び、それらを個性豊かに活かしながら、殻にはまることなく、自由でのびのびと人生を豊かに送ること。」つまり、「明

日へ」繋がる「創造文化」を築くことと考えます。「栄養教諭」は厳しい配置状況にあります。しかし、皆さんの「学ぶ意欲」と「明日へ」の希望が「夢は叶う」ものになると信じてやみません。

「栄養教諭」を将来のキャリアと考えている「学生の皆さん」。是非、共に学んでいきましょう。それには、「大学での専門的な学び」を基盤とし「食育」に携わる内容・方法を実践できる指導力を育むことが重要であると思います。

気軽に研究室に訪問ください。そして、「食」を通して子どもたちに未来を生き生きと生きられるようにするには、どのような「食育」の教育実践が必要なのか語り合ひましょう。待っています。

医療保健学部 医療栄養学科 教授 とよだ ひでとし 豊田 英敏



病棟情報システムの導入

医療情報学科では昨年度から、アクティブラーニングをより積極的に導入し、学生参加型授業を推進しています。2016年度からは、文部科学省の補助金により、新たに病棟情報システムを導入しました。

病棟情報システムの導入前は、教育用電子カルテシステムを2012年度から授業で活用してきました。電子カルテシステムでは、カルテの記載やオーダー発行プロセスを体験できますが、スタンドアロン型であるため、オーダー情報が他の職種に伝わることや、それがデータベースに蓄積されるといった一連の流れを学習できないという問題もありました。そこで、オーダー発行後の業務プロセスと情報のフローに重点を置き、新たに病棟情報システムを導入することになりました。

実際に導入したシステムは、ナースコール、離床センサー、注射薬のバーコード認証、ベッドサイドへの食物アレルギー等のサイン表示、入退院管理などの機能を有するもので、今年度は試験的に授業に導入しますが、次年度実施される新カリキュラムにおいて、本

格導入する予定で準備を進めています。また、データベースシステムも利用できることから、IT系科目との連携も視野に入れて、今後の活用について検討していく予定です。



導入した病棟情報システム

資格試験合格状況

医療情報学科では、情報処理系の資格である IT パスポートと基本情報技術者、医療系の資格である診療情報管理士、医療と情報に関わる資格である医療情報基礎知識検定および医療情報技師の5つの資格取得を目指しています。2015年度の資格試験合格状況は、表

の通りとなりました。今後も、資格試験合格者を増やすため、関連科目におけるサポートや資格対策講座を充実させていきます。

※応用情報技術者は、基本情報技術者の上位試験です。

主催	資格／試験名	合格者	備考
一般社団法人 日本病院会	診療情報管理士	15名	
一般社団法人 日本医療情報学会	医療情報技師	10名	
独立行政法人情報処理推進機構 情報処理技術者試験センター	応用情報技術者	1名	国家試験
独立行政法人情報処理推進機構 情報処理技術者試験センター	基本情報技術者	1名	国家試験
独立行政法人情報処理推進機構 情報処理技術者試験センター	ITパスポート	13名	国家試験
一般社団法人 日本医療情報学会	医療情報基礎知識検定	57名	

高校生向け体験教室／出張講義のご案内

医療情報学科では、毎月1回の予定（7月・8月は除く）で、「高校生向け体験教室」を実施することとなりました。医療や情報に関するテーマを1つ取り上げ、体験型のミニ公開講座として実施します。テーマは「スマホアプリを作ってみよう」など、大学ホームページにて毎月公開しています。

また、高校を対象とした出張講義も行います。「医療情報」に関連するご希望のテーマについて、45分程度で講義を行います。出張講義内容例については、大学ホームページにて紹介しています。

学生生活支援委員会の取り組み

学生生活支援委員会は学生の生活全般に関した支援を行い、教育の質的向上に向けての教育環境を整備するために設置された委員会です。主な活動内容としては、5月に新入生を対象とした合宿研修の学科企画や年2回行われるコンタクトグループミーティングの運営、学生生活実態調査などを行っています。コンタクトグループとは各学年の学生と教員で構成され、学生相互の交流と情報交換を目的としたグループです。また、主な実習施設である東京医療センター主催の七夕やクリスマスの飾りつけをボランティア学生と一緒にしています。さらに、災害訓練では、2年次生が傷病者役・患者役・搬送者役として参加するのをサポートしています。

東が丘・立川看護学部が完成年度を迎えた平成25年度から学生の生活実態を把握し教育活動に活かす目的で、毎年11月に学生生活実態調査を実施しています。結果の一部を紹介させていただきますと、家族と同居している学生が殆どで、多くの学生はアルバイトをしています。その主な理由は小遣いを得るためで、アルバイト先としては居酒屋などの飲食店が多く、勤務終了時間も遅いという結果でした。また、試験期間以外の学習時間が1時間未満の学生や授業につ

いていけないと感じる学生が半数を超えているという結果が得られました。これらより、大学での生活以外の時間はアルバイトなどに追われ、専門職を目指す学生としては、自己学習の時間が少ないと考えられます。そのため、今年度よりシラバス内に、事前・事後学習の課題を明確に記載し、学生が主体的に学習できるように努めています。また、学習場所として最も多いのが自宅で次いで学内という結果も示されており、学生が学内で学習したいと思えるような学習環境を整備していくと共に、ご家族の皆様には、ご自宅での学習支援をお願いしたいと考えております。

東が丘・立川看護学部における学生生活全般の満足度は年々高まっているという結果が得られております。引き続き細やかに学生支援を行いながら、将来、医療系専門職になる学生たちには、自律して学習するという基本的な学習習慣を身につけてもらいたいと願っています。

東が丘・立川看護学部 学生生活支援委員会 委員長
准教授 田中 留伊

主な行事

4月	コンタクトグループ
5月	新入生合宿研修
6月	スポーツ大会
7月	七夕
9月	災害訓練（立川）

10月	災害訓練（東が丘）
11月	医愛祭、コンタクトグループ、学生生活実態調査
12月	クリスマス
1月	災害訓練（立川）
3月	卒業関連イベント

さっそく、1年次生の看護実習が始まります

今年度で災害看護学コースも3期生を迎えております。4月に入学してきた1年次生の最初の実習（看護学体験実習）が6月から始まります。看護を学び始めて2か月という早い段階での病院実習であり、学生にとっても教員にとってもドキドキの実習です。今後、4年間の学びに繋がる実習に成って欲しいと望んでいます。

1年次生は毎回、かわいいと感じます。それは、成長段階が目に見えて分かるからです。彼らにとって最初に教わる看護学概論や基礎看護学演習は未知との遭遇に近く、使用言語から違います。教える方も言語を選びながら体を使って表現し、分かったかどうか反応を読み取る能力が必要な状況です。笑ってはいけませんが、つつい笑ってしまう珍回答も続出、教員のデモンストレーション後の学生達の演習場面では、教えている教員のほうが「どうしてそうなるの？」と学生の行動を分析するのに悩みながら、頭を抱えつつ口元が緩んでしまいます。ある面、私たち教員は、彼らに精神的に癒され健康を維持できているのかもしれないと感じる場面でもあります。ナイチンゲールやハンダーソンが長生きだったのも、ひとつには教え子たちからの癒しがあったからではないかと思っています。

学生たちは、患者として病院を訪れたことはあっても、病院を働く側の視点から見たことはなく、「看護学体験実習」は、今後、働く場となる「場」を見る大切な機会です。看護師だけではなくいろいろな職種の人たちの存在とその必要性、患者のことに配慮された病院という環境を学ぶことも実習目標のひとつです。そして、看護

師の存在意義が体験できる1年次の後期セメスターに予定されている「日常生活援助実習」に繋がるように、最初の扉を開いて欲しいと望んでいます。

しかし、今までの学生の実習を通して気になることが学生のマナーです。「常識」という言葉は、戦前戦後の大きな環境の変化でも変わらずにあった日常生活の行動規範であり、判断の基準で、基本的に時代の変化で大きく変わらないものだと考えていましたが、どうも違うらしいと1年次生を担当するようになって感じています。まず実習中の服装です。村山医療センターは院内を私服で歩くことになるので特に学生らしい、露出度の少ない服装でと説明していますが、学生たちには通じないようです。学生には見本がないとだめらしいので、今後、実習中の通学ファッション冊子を作製するか案中です（モデルは災害看護学コースの教員：非売品）。次に大変なのは、挨拶の仕方です。挨拶のタイミングだけではなく、セリフまで指導なくては、言葉が出てこない現状です。如何に他者を意識せず日々を送ってきた学生の姿を見ることが出来ます。

実習中もいろいろ起こりそうな予感があり、先手必勝で対応策を実施中ですが、兎に角、無事に看護学体験実習が終了することが実習を担当する教員一同の望みです。

東が丘・立川看護学部 災害看護学コース 准教授 岩満 裕子

院生の声

小児の地域連携支援の課題改善を目指して

私は公立の通常小学校に通学する医療的ケアを要する障害児の看護と、看護大学の非常勤講師を兼務しながら博士課程に在籍しています。「障害者差別解消法」が本年4月に施行され、地域で暮らす障害児とご家族たちは、ますます学区内での教育機関就学への期待が膨らんでいます。世界的なインクルーシブ教育実現の流れの中で、日本でも気管切開や胃ろうがあり日常的に吸引等の医療的ケアが必要な児童に対する合理的配慮の一つとして、行政から学校への看護師配置がすすんでいます。

呼吸器をつけて通学する先進的な実践が進む各地の通常学級で、昨年、調査をさせていただきました。広く様々な知見を得て、現場の看護の質向上はもちろん行政配置の看護師への研修や、学校・行政への助言の基礎としています。この成果の一部は、この3月開催された19th East Asian Forum Of Nursing Scholars 2016で示説発表しました。

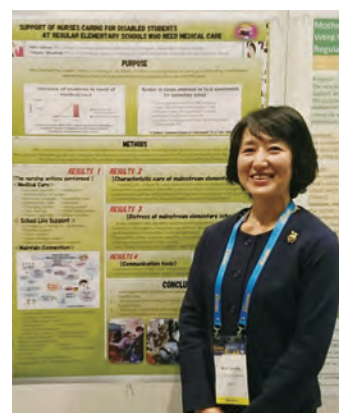
実は、必須な英語は読むのも書くのも苦手です。しかし、苦手と言っではいられないので、同期と大学院の英語ご担当教授にお願いし英論文の勉強会を始めました。先生の励ましに有頂天になる日々と奈落の底に落ち込む日々を重ね、仲間と励まし合いながら続け少しずつ成長しています。1月には医療看護英語の短期留学にも行かせて頂き、多くの皆様の支えに感謝の気持ちが途絶えることはありません。

この19thEAFONSでは、私と同じ分野の研究者と出会えました。その方々からの情報提供は有力で、互いの研究の疑問点や今後の課

題などのディスカッションができたことは、大変有意義で学術的に楽しい体験となりました。加えて、多くの看護研究者が次の研究的課題の解決に向かっていく姿に大いに刺激を受けました。

私の課題は、高度な臓器別治療を受けている個性の強い障害児への地域連携における実践知の言語化・一般化であり新しい看護の価値の創造とエビデンスの創出です。学びはその思いを言語化し仲間と共有し発展させることです。自分の中に閉じこもらず道なき道を歩むところ細さの励ましは、現場で素晴らしい実践を重ねている看護師仲間たち、心通わす障害児とそのご家族、関わる他職種の皆さんの声です。そして道しるべは指導して頂いているご担当教授と、先人たちの研究です。まだまだ先が見えない時期ですが、大きな時代のうねりの中で変化を求められている地域支援の場において、障害児と家族が安心して暮らせる地域支援の仕組みづくりへの提案を、研究で発信できるよう頑張りたいと思っています。

医療保健学研究科
博士課程2年
看護学領域
たむら みほ
田村 三穂



与えられた時間を、疾走する。



若い頃、僕の時間は未来へ向けて無限にあるように思えた。
今、僕は終末の時間から逆算する。
すると、人も風景も、そう、何もかもが違って見えてくる。
僕は、疾走する。

蜷川幸雄（演出家）
「千のナイフ、千の目」〈ちくま文庫〉
より引用

私は2011年3月11日に大学の卒業式を迎えました。
東日本大震災で多くの命が犠牲になった、まさにあの日です。
助産師を目指し、進学が決まっていた私は、未来に満ちた気持ちでいっぱいでした。

しかし、一瞬でその気持ちは大きく変わりました。

「未来は、無限ではないのかもしれない」と。

限られた時間しかない、と考えたことがあっただろうか？

なんとなく過ごしていた時間や、いつかやると先送りしてきたことはなかっただろうか？

一日一日を大切に生きなければいけない。

そんな思いを抱きながら、助産師として働き始めました。

「生」そして「死」を目の当たりにする中で、私が今しなくてはな

らないことは《学ぶこと》であると思い、大学院進学を決めました。
大学院にはさまざまな職種が集まります。年齢もばらばらです。
きっと、ここでしか出逢うことの出来なかった素晴らしい仲間だと感じています。

助け合い、時には意見をぶつけ合い、それぞれのバックグラウンドは違えど《学ぶこと》を志して集まった仲間は一生の宝物であるといえます。

今疑問に思うことを研究していく毎日は本当に充実しています。
社会人大学院生は、正直体力も時間も辛いことが多いです。しかし、この環境に身を投じたことを幸せだと感じています。患者さんのために出来ることは何か？臨床にはたくさんの疑問が転がっています。たくさんの人の意見を聞きながらそれを解決していくことが出来るのは、社会人大学院生の強みであり、魅力であるといえます。

自分に与えられた時間を、どのように使うか。「明日やれば良いや」は、もったいないと思います。今、何をすべきか。過ぎた時間を後悔しないために、今日も一日を大切にしたいと思います。

ぐずぐずしている間に、人生は一気に過ぎ去っていく

セネカ（ローマの哲学者・詩人）

医療保健学研究科 修士課程2年 助産学領域 せきぐち 間口 まどか

助産師のさらなる自律を目指した 「ALSOプロバイダーコース研修」の経験

本年2月に、高度実践助産コースの院生および母性看護・助産学の教員が本学で実施されたALSOプロバイダーコース研修に参加しました。

ALSOプロバイダーコース研修は、周産期医療に係る産婦人科医および助産師などを対象に実施される研修で、周産期救急に対処できる知識や技術の習得・維持・向上を旨としたシミュレーション教育です。

少子化や産科医療の崩壊などが問題となっている中で、本学高度実践助産コースの院生に対するこの研修受講が不可欠であると判断して参加したものです。全米では、ほとんどの分娩施設の分娩に関わる医療プロバイダーに、これを義務づけております。日本でも2008年からALSO研修が開始され、すでに5,497名（H28.3.31）が受講しております。

今回のALSO研修の教育内容を簡単に説明しますと、講義とワークショップから構成されている2日間の研修です。主な講義内容は、マタニティケアにおける安全性、分娩時の胎児監視の症例検討、難産、妊婦の蘇生、早産、前期破水、内科的合併症、出産危機などでした。ワークショップでは、胎位・胎向異常、肩甲難産、分娩後大出血、吸引分娩を課題として取り上げ、少人数グループに分かれ、マネキンを使用して演習が行われました。

妊産婦が危機的状況に陥ったときに、チーム医療により医療安全

が担保されます。ワークショップでは、周産期医療チームにより、救命に向けた最善のアウトカムを提供するためのパフォーマンスの訓練でした。緊急時の周産期チーム医療における助産師の役割を改めて考えることができました。ALSO研修に参加し、単に周産期救急の知識や技術のスキルアップのためだけではなく、院生、教員共に助産師の専門性の強化や自律について考えるよい機会になりました。

これからの助産師の課題は、助産師の専門性を高めつつ、根拠に基づいたアセスメントとアセスメント結果に基づく確な対応力です。本学の高度実践助産コースでは、緊急対応時も含めて、専門性の高い自律した助産師の育成に努めてまいります。

大学院看護学研究科 高度実践助産コース 准教授 橋本 美幸



◀産後大出血の
双手圧迫

妊婦の
超音波検査▶



◀吸引分娩

ハワイでみたNPの活動

まだまだ寒い日が続いていた3月半ば、日本NP教育大学院協議会主催のハワイ研修が行われました。ハワイで働く日本人NPの講義に始まり、医療機関6施設とNP教育を行っている大学を視察しました。この研修において私の関心は、日本とアメリカのNPや医療の違いを見出すことにありました。

“最近では大病院や急性期領域でもNPが認められ、独自の働き方ができるようになってきており、病院での需要が高まっている。”という話をお聞きました。1960年代半ばに始まったアメリカのNP制度は、もともと医師の少ない地域や貧困層を対象に、医師と連携しながらプライマリケアを提供していました。安全性や実績が認められNPとして健康保険の請求ができるようになり、また、最近の“オバマケア”の導入によりさらに活動の場が広がっております。現在、ハワイ州では死亡診断書以外は、処方権も含めすべての権限が与えられています。

急性期領域でのNPは、救急外来患者の診療や手術患者の術前術後管理（在宅での創管理や全身状態の観察を含む）を行っていました。また、急性期治療終了後の転院や退院の決定に関しても、NPが主体となり判断をしていました。患者を生活者として捉え、全人的な医療を提供できることがNPの最大の特徴であることを、現地を訪問し改めて感じました。

近年アメリカではNP資格取得者が増加しています。その背景には正看護師としての就職難（特にハワイ州）という日本とは異なる事情がありました。アメリカの看護師の地位と名誉は高く収入も安定しており、離職者が少ないため、新卒の正看護師は病院への就職が難しい状況のようです。病院で働くために、NPという上級看護師の資格を目指す学生も多いようです。

医療提供に関しても違いがありました。ハワイでは患者支援に係

わる業務が階層化・細分化されていきました。例えば、バイタルサイン測定は看護助手が、採血や血糖測定は検査科職員が、移送は移送係が、おむつ交換は介護助手が行います。日本の看護師は患者に係わる生活援助のほとんどを自らが直接行っているために業務量が多くとても多忙です。それでも担当患者に責任を持ち、みんなで協力しながら患者支援を行っているところは日本の看護の素晴らしいところだと思いました。

ハワイのNPの活動は、社会情勢に合わせて変革を繰り返しています。私たちは、日本の看護の良いところを活かし伸ばすために、日本の文化・社会状況やニーズに目を向け、日本独自のNPの働き方を考えていく必要があります。この研修は、今までの知識を深め、視野を広げるよい機会となりました。今回学んだことを活かし、今後の実習や臨床では看護哲学に基づいた診療アプローチと、社会の変化に対応するための基礎を習得していきたいと思います。

看護学研究科 修士課程2年 高度実践看護コース 関口 奈津子



Waikiki Health CenterのNPとともに

平成28年度 入学者選抜状況

平成28年度の入学者選抜は、大学入試センター試験利用入試（後期日程）の選抜をもってすべての日程が終了しました。
入学試験の概要は次のとおりです（入試広報部）。

【入学試験実施概要（平成27年8月～平成28年3月）】

●医療保健学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
8月AO入試（医療情報学科）	平成27年8月12日（水）	10	10	10	9
9月AO入試（A）（医療情報学科）	9月13日（日）	5	1	1	1
9月AO入試（B）（医療栄養学科）	9月13日（日）	10	26	26	14
9月AO入試（B）（看護学科）	9月13日（日）	8	90	89	9
10月AO入試（医療情報学科）	10月11日（日）	8	5	5	5
12月AO入試（医療情報学科）	12月13日（日）	5	3	3	3
3月AO入試（医療情報学科）	平成28年3月2日（水）	2	3	3	3
計		48	138	137	44
推薦入試（指定校推薦・公募制推薦）	平成27年11月15日（日）	57	71	71	47
計		57	71	71	47
センター利用入試（前期）	平成28年1月16日（土）・17日（日）	40	735	735	312
一般入試（前期）	2月4日（木）	95	947	878	262
一般入試（後期）	2月18日（木）	31	247	219	40
センター利用入試（後期）	1月16日（土）・17日（日）	9	20	20	7
計		175	1949	1852	621
合 計		280	2158	2060	712

●東が丘・立川看護学部

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
推薦入試（指定校推薦・公募制推薦）	平成27年11月15日（日）	60	56	56	52
			59	59	55
計		60	115	115	107
センター利用入試（前期）	平成28年1月16日（土）・17日（日）	15	215	215	88
			109	109	34
一般入試（前期）	2月4日（木）	100	367	348	100
			194	185	57
一般入試（後期）	2月18日（木）	20	109	99	17
			56	50	3
センター利用入試（後期）	1月16日（土）・17日（日）	5	10	10	4
			5	5	2
計		140	1065	1021	305
合 計		200	1180	1136	261 151 412

●助産学専攻科

試験区分	試験日	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数
推薦入試	平成27年9月12日（土）	15	22	22	10
社会人推薦入試	9月12日（土）		0	0	0
一般入試	10月11日（日）		27	27	10
合 計		15	49	49	20

編集後記 Editor's note

開学11年目を迎えた東京医療保健大学です。本号では田村理事長に「今後の大学の経営について」と題して主に経営に係る観点から、今後の展望をお書きいただきました。また、木村学長には「未来に向けて挑戦しよう」をテーマに教育研究面における今後の課題等についてご執筆いただきました。このように、本学の経営面、教学面を代表するお二人から同時に原稿をお寄せいただけたのは、「学報こころ」であるがゆえと深く感謝いたします。

さて、昨年の同時期に発行した第20号では、折しもネパール連邦民主共和国で大地震が発生したことに伴い、我が国の国際緊急援助隊医療チームへ参加された本学教員からの活動報告を急ぎよ掲載しました。また、本年は4月14日・16日に連続して発生した熊本地震によって熊本・大分の両県を中

心に人的・物的にも大きな被害を被っております。毎年のように地球的な規模で災害が繰り返して起きていますが、今後も緩みないように対応を講じていくことが必要と痛感させられます。被災された皆様に対しまして心からお見舞いを申し上げますとともに、十分に手厚い支援の手が差し伸べられますことをお祈りいたします。本学の学生で組織いたします学友会はいち早く学内で募金活動を実施し、予定を上回る金額に達したとのことであります。

そして、被災地域で本当に必要とされるものへの支援が実現できたということです。

本学が育成する医療人としての自覚と心構えが端的に発露されたと言えるのではないのでしょうか。

国際交流

International Exchange

海外研修が無事終了

国際交流委員会では、全学合同海外研修（ハワイ大学研修）を、去る3月7日～14日（6泊8日）の日程で実施しました。参加者は、医療保健学部看護学科8名、同医療栄養学科9名、同医療情報学科9名、東が丘・立川看護学部看護学科7名で、学生合計33名、引率者6名、総参加者数39名でした。

現地におけるプログラム概要は、以下の通りです。

講義：医療チームの中の異なる医療職の役割、ハワイの原住民の歴史と健康、アメリカの管理栄養士や看護師の教育と役割、日本とアメリカの医療の相違、ハワイ大学の模擬患者システム、概念地図の作成とその意義、アジア太平洋地域におけるグローバルヘルスと気候の変動・食糧供給問題

演習：シミュレーターを用いた心肺蘇生演習、緊急状況におけるチームケア、低血糖患者へのシミュレーション演習、電子カルテや電子薬剤保管庫などの使い方

見学・訪問：THSSC施設全体とIT支援システム、パシフィック・リハビリテーション病院、ハワイ大学キャンパスツアー、ハワイ大学原住民文化センター内のKa Papa LoI O Lanewai、シャミナーデ大学看護学部



シムマンを使っての
心肺蘇生練習をする学生たち



ハワイ大学原住民文化センターで
（医療栄養・医療情報）



シャミナーデ大学看護学生との
交流でレイの作り方を学ぶ学生たち



大きなスクリーンを使った
ハワイ大学での講義風景

最終日は領域別の研修でした。五反田、東が丘の両看護学科は、シャミナーデ大学看護学部を訪問しました。アメリカの看護教育（講義）、同大看護学生による模擬患者シミュレーション演習の見学、サービスラーニングフェア訪問、さらに、同大学生とのランチ交流会、食事後にはフラダンス、レイ作りなど文化交流を行い、密度の濃い学習および交流の機会となりました。医療栄養学科と医療情報学科は合同で、午前中はパシフィック・リハビリテーション病院を訪問し、それぞれ分かれて管理栄養士と医療情報専門家からお話を伺いました。その後、ハワイ大学に戻り、ハワイ大学原住民文化センター内のKa Papa LoI O Lanewaiを訪問して、ハワイ原住民の文化や食生活について学びました。午後は、災害時の支援について、栄養と情報の側面からどのような対応が可能かを考える演習、ハワイ原住民に多く見られる非感染性疾患などについての講義が行われました。

すべての講義、演習、見学終了後に、THSSCで修了式が開催され、Lorrie Wong THSSCセンター長から、学生1人ひとりに修了証書と記念品が手渡されました。

最終日の夜には、ハワイ大学とシャミナーデ大学の教師や学生を招待して交流お別れ夕食会を開催、親交を深めました。また、ハワイでの異文化体験でも多くの発見や学びがあったと学生たちは報告しています。研修後に実施した学生アンケートでは、大学として海外研修を継続していくべきだと考える学生がほぼ100%に上っています。

学生報告会は、今回初めてキャンパス毎に開催することになりました。日程は現在調整中です。研修報告書は9月末完成を目指しています。

インドネシアの看護関係者が本学を訪問

去る4月18日、インドネシアの国立ハサヌディン大学看護学部教員および関連病院看護師計4名が、本学五反田キャンパスの医療保健学部看護学科を半日訪問しました。国際交流委員会と看護学科が協働して以下のようなプログラムを準備してお迎えしました。

- ・本学の概要および本学の看護教育についての説明
- ・校内ツアー（実習室、図書館、教室、カフェテリアなど）

- ・授業見学（医学・医療概論の講義および地域看護学家庭訪問ロールプレイ実習）
- ・ハサヌディン大学看護学教授による同大学における看護教育についての説明
- ・医療保健学部看護学科の教員との交流会

この訪問は、それぞれの国の看護教育における相違や類似点を学んだり確認したりする貴重な機会となり、双方にとって有意義なものとなりました。双方ともに、今後も機会をとらえて交流を継続していきたいという意向を確認しました。

国際交流アドバイザー 早野 真佐子



トピックス
Topics

学生メディカルラリー2016の開催について。

3月23日(水)、国立病院機構キャンパスにおいて学生メディカルラリー2016が開催され、全国8大学から約180名が参加しました。本学からは、クラブサークル「ACT」が出場し、準優勝しました。昨年に続き2年連続の優勝は惜しくも逃しましたが、医師・看護師・救急救命士のプロ顔負けの知識・技術は、高い評価を受けました。

本学で「看護の日」朗読イベントが実施されました。

5月12日(木)に五反田キャンパスG305講義室において、第6回「忘れられない看護エピソード」朗読会が行われ、医療保健学部看護学科4年次生および2年次生が出席しました。「看護の日」PR大使の剛力彩芽さんによる入賞作品の朗読やショートムービーの上映、トークショー等が行われ、最後は参加者全員での記念撮影となりました。剛力さんからの応援エールを受け、学生が新たな気持ちで看護の学習に取り組むことを期待します。

災害保健活動演習について。

助産学専攻科では昨年に引き続き、看護学科地域看護学・大学院助産学コースとの合同演習として、災害時保健活動の模擬体験を実施いたしました。産婦人科医師による講義に続き、演習においては助産師会から2名のファシリテーターにご参加いただき、本番さながらの演習体験となりました。さらに今年は、東日本大震災を経験された石巻赤十字病院の看護師の方をお招きし、災害時の貴重な体験をもとに、医師、看護師、助産師が参加する充実した内容の講義・演習になりました。また今年は大学での講義としてはめずらしいということで復興庁の方も今回の講義を視察されました。学生にとっては実りある充実した講義演習であったようです。今後も継続的に実施していきたいと考えております。

女子バスケットボール部が二連覇を果たしました。

4月30日(土)から5月15日(日)に開催された第50回関東大学女子バスケットボール選手権記念大会、全80チームの参加によるトーナメントで本学女子バスケットボール部は勝ち上がりベスト4、そして早稲田大学、松陰大学、日本体育大学との決勝リーグで見事、優勝！2連覇を果たしました。2位は早稲田大学、3位は松陰大学、4位は日本体育大学です。個人賞は医療栄養学科4年次生、平松飛鳥さんが2年連続で劇的な決勝弾で、昨年度に続きMVP最優秀選手賞を受賞しました。さらにベスト8賞に医療情報学科4年次生、宮坂桃菜さんが、新人賞にはこれからが楽しみな医療情報学科1年次生、藤本愛妃さんが受賞しました。女子バスケットボール部、2連覇、おめでとう！

公開講座の実施について。

実施日時	6月11日(土) 10:00～12:00
実施場所	こみゅにていぶらざ八潮 (品川区パートナーシップ講座)
講座名	「知って得する食品衛生」
講師	医療保健学部医療栄養学科 大道 公秀 講師

実施日時	10月23日(日) 10:00～12:00
実施場所	世田谷区立特別養護老人ホーム上北沢ホーム (世田谷区共催)
講座名	「この冬 気をつけたい感染症」
講師	東が丘・立川看護学部看護学科 松本 和史 講師

実施日時	11月20日(日) 10:00～12:00
実施場所	五反田キャンパス (品川区共催)
講座名	「逆境を乗り越える力、 折れない心(レジリエンス)をはぐくむ 実践編」
講師	医療保健学部看護学科 秋山 美紀 准教授

実施日時	12月10日(土) 10:00～12:00
実施場所	国立病院機構キャンパス (目黒区共催)
講座名	「最期まで自分らしく生きるために」
講師	医療保健学部看護学科 櫻井 智穂子 准教授